

萩尾望都×山岸涼子×大和和紀 三人展

Shojo Manga Infinity:
Moto Hagio, Ryoko Yamagishi, and Waki Yamato

2026.10.28 [水] 国立新美術館 企画展示室2E [東京・大塚・本郷] :
~2027.2.8 [月]

開館時間 10:00~18:00 毎週金・土曜日は20:00まで *入場は閉館の30分前まで
休館日 大塚日 11.4 [水]、年末年始12.28 [月]~2027.1.5 [水] *ただし、11.3 [水・祝]、12.8 [水]は開館
主催:国立新美術館 共催:毎日新聞社 特別協力:上/宝、講談社、小学館 協力:ソニー・ミュージックエンタテインメント 企画制作/企画: 企画制作/企画

新
THE
NATIONAL
ART CENTER
TOKYO
国立新美術館



Period: 2026.10.28 (Wed.) ~ 2027.2.8 (Mon.) Venue: The National Art Center, Tokyo / Special Exhibition Gallery 2E
Closed: Tuesdays, November 4 (Wed.), December 29 (Mon.), 2026 to January 5 (Tue.), 2027 *Open on November 3 (Tue.), December 8 (Tue.)
Opening hours: 10:00-18:00 (10:00-20:00 on Fridays and Saturdays) *Last admission 30 minutes before closing

少女漫画 ∞ インフィニティ

少女漫画・インフィニティ
萩尾望都×山岸涼子×大和和紀 三人展
国立新美術館 企画展示室2E
2026年10月28日(水)~2027年2月8日(月)

【展覧会概要】

少女漫画界のレジェンド、夢の競演!!

萩尾望都・山岸涼子・大和和紀——少女漫画の地平を切り拓き、時代を超えて読み継がれる名作を生み出してきた三人の画業をたどる展覧会を、国立新美術館開館20周年を記念して開催します。1970年代、少女漫画は飛躍的な進化を遂げました。その中心にいた三人の創作の軌跡を、デビュー初期から現在に至るまでの作品でたどります。美しいカラーイラストや心に刻まれる名場面の原画、さらに貴重な資料の数々を通して、その奥深い表現世界に迫ります。なお、本展は国立の美術館で開催される初の大規模な少女漫画展です。

【作家プロフィール】

萩尾望都 Moto HAGIO

1949年生まれ。福岡県出身。1969年「ルルとミミ」でデビュー。永遠に生きる吸血鬼(バンパネラ)・エドガーを主人公にした連作「ポーの一族」(1972-76年)や少年期の繊細な心理描写が高い評価を受けた「トーマの心臓」(1974年)をはじめ、「11人いる!」(1975年)、「銀の三角」(1980-82年)などSF作品も多く手がけ、壮大な世界観の作品を描き続けてきた。1997年「残酷な神が支配する」で第1回手塚治虫文化賞マンガ優秀賞を受賞。2006年「バルバラ異界」で第27回日本SF大賞を受賞。2012年には少女漫画家では初となる紫綬褒章を受章し、2019年文化功労者に選出される。海外での認知度も高く、2022年にアイズナー賞「コミックの殿堂」を受賞。

山岸涼子 Ryoko YAMAGISHI

1947年生まれ。北海道出身。1969年「レフトアンドライト」でデビュー。卓越した身体表現でそれまでのバレエ漫画とは一線を画した「アラベスク」(1971-75年)で一躍注目を集める。また、若き日の聖徳太子を独自の切り口で描いた「日出処の天子」(1980-84年)では漫画界に大きなセンセーションを巻き起こした。同作で1983年度第7回講談社漫画賞を受賞。そのほか、東西の神話や伝承をモチーフにした物語や幻想ファンタジー、ホラー、サイコスリラーなど多岐に渡る作品を発表している。2000年から「テレプシコーラ／舞姫」(2000-10年)で再び本格的なバレエ漫画に挑み、2007年度第11回手塚治虫文化賞マンガ大賞を受賞した。

大和和紀 Waki YAMATO

1948年生まれ。北海道出身。1966年「どろぼう天使」でデビュー。大正時代を舞台にした波乱万丈な恋愛ドラマ「はいからさんが通る」(1975-77年)は、何度もアニメ化・舞台化されている代表作で、第1回講談社漫画賞少女部門を受賞した。その後も「ヨコハマ物語」(1981-83年)、「N.Y. 小町」(1985-88年)など、時代の転換期にたくましく生きる女性像を打ち出し、王道の少女漫画を描き続けてきた。日本の物語文学の最高傑作『源氏物語』を漫画化した「あさきゆめみし」(1979-93年)は、教育の現場からも高い評価を得て、学生のバイブルとして読み継がれている名作。2019年にはメトロポリタン美術館「The Tale of Genji: A Japanese Classic Illuminated」で紹介された。

【みどころ】

■少女漫画の“無限性”を見渡す

本展は、萩尾望都・山岸凉子・大和和紀という三人の作家を軸に、少女漫画の表現が切り拓いてきた豊かな世界を展望します。内面の揺らぎや他者との関係、女性の自立や多様な性のあり方、歴史や文化への眼差し、異なる世界への想像力、そして重層的なレイアウトなどに見る漫画技法としての進化も含め、少女漫画が培ってきた幅広い主題と手法は、視覚表現の可能性を大きく広げてきました。多層的に展開してきた少女漫画の魅力を、「インフィニティ」という言葉に込めました。

■個を超えて響きあう三作家の軌跡

萩尾望都の幻想的で内面世界に深く分け入る物語、山岸凉子の人間の業や精神性に鋭く迫る表現、大和和紀の歴史や文化を背景にした華やかな作品世界——それぞれが独自の領域を切り拓き、少女漫画の表現を新たな次元へと更新し続けてきました。三人はいずれも1960年代後半のデビュー以来、第一線で活躍を続けており、本展ではその約60年にわたる歩みをたどります。

■原画で出会う新たな感動

漫画本編の原稿から読み取れる繊細な線、巧みな構成、ページに流れる時間、そして雑誌の表紙や扉を飾ったカラーイラストの美しい色彩。原画ならではの質感を通して、印刷では再現しきれない微妙な色合いやディテールをぜひ会場でご覧ください。本展では、モノクロ・カラー原画合わせて800点以上を展示予定です。（※カラー作品は前期・後期の展示替えあり。）



(左)©萩尾望都／小学館 (中)©山岸凉子 (右)©大和和紀／講談社

【主な出品作品】

萩尾望都



ポーの一族

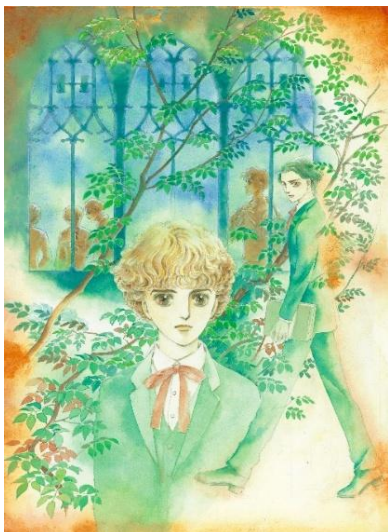
バンパネラ(吸血鬼)として永遠の時を生きることになった少年・エドガーを中心に、様々な時代・視点で描かれたオムニバス連作。1970年代に短編・中編あわせて15エピソードが発表された。2016年には40年以上の時を経て新シリーズ「春の夢」の連載が開始され、多くのファンを驚かせた。萩尾が生涯をかけて取り組んでいる、作家の物語世界を象徴する作品といえる。

『週刊少女コミック』(小学館)1976年10号 付録
バレンタイン・カード
©萩尾望都／小学館



ポーの一族 春の夢

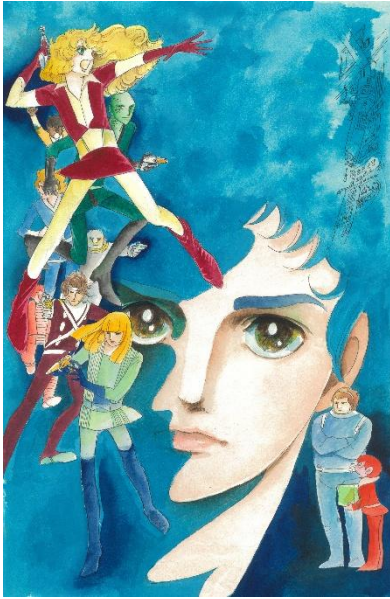
『月刊 flowers』(小学館)2016年7月号 表紙
©萩尾望都／小学館



トーマの心臓

冬の終わりの朝、トーマ・ヴェルナーが陸橋から落ちて死んだ。トーマは、慕っていた上級生のユーリ宛てに手紙を遺していた。そんななか、トーマに生き写しの転校生エーリクが現れ、ユーリの心は揺さぶられる。ドイツのギムナジウム(寄宿学校)を舞台に繊細で多感な少年たちが織り成す「愛」についての物語。

小学館文庫 カバー 1995年
©萩尾望都／小学館



11人いる！

宇宙大学の最終試験は、漂流している宇宙船で10人の受験生が力を合わせて53日間生き延びることだった。しかし、受験生が宇宙船に集まると、そこには1人多い11人が集っていた。11人目は何者か、その目的は？ それぞれの事情を抱えた受験生たちが挑む、波乱の最終試験の幕が上がる。萩尾SFの白眉。

『別冊少女コミック』(小学館)1975年10月号 扉
©萩尾望都／小学館



メッシュ

パリに住む画家のミロンの家に、ひょんなことから金髪に銀色が一筋入った中性的な美青年“メッシュ”が転がり込んでくる。自分を取り囲む複雑な家庭環境や陰謀に翻弄されるメッシュだったが、ミロンとの生活のなかで徐々に自己と向き合っていく。80年代を代表する萩尾のビルドアップスロマンの傑作。

『プチフラワー』(小学館)1980年夏の号 扉
©萩尾望都／小学館

山岸凉子



アラバスク

ソビエト連邦下、キエフのバレエ学校に通うノンナは、高身長に悩み自信を持てないでいたが、ユーリ・ミロノフとの運命的な出会いをきっかけに生来の才能を開花させていく。激しい競争と芸術への情熱の狭間で揺れ動きながらプリマドンナへの道を駆け上がっていくノンナの成長を描いた本格バレエ漫画。

『りぼん』(集英社)1972年7月号 扉
©山岸凉子



日出処の天子

飛鳥時代、中央集権国家づくりに貢献し、仏教文化を積極的に取り入れた叡智の人物として知られる厩戸王子(後の聖徳太子)の半生を描いた歴史ドラマ。美しい容姿と超人的な能力で他を圧倒していく厩戸の政治的手腕と、側近の蘇我毛人(えみし)との愛憎入り交じる関係性の行方に当時の読者は熱狂した。

『LaLa』(白泉社) 1980年5月号 扉
©山岸凉子



日出処の天子

『LaLa』(白泉社) 1981 年 9月号 扉
©山岸凉子



妖精王

北海道に病気の療養のために引っ越してきた爵（ジャック）。クーフーリンと出会い、妖精王の生まれ変わりとして覚醒する。邪悪な魔女クイーン・マブの支配を受けようとしていた妖精国（ニンフィディア）を救うため、爵は仲間とともに冒険の旅に出る。異色のファンタジー活劇。

『花とゆめ』（白泉社）1977年13号 扉
©山岸涼子



テレプシコーラ／舞姫

バレエ教室を営む母のもと、将来を嘱望された姉・千花（ちか）とは対照的にのんびり成長した妹の六花（ゆき）。しかしある転校生との出会いにより、バレエの明と暗を知ることになり……。表現の高みを目指す少女たちの成長と苦悩、肉体の限界などをひりひりと描きだす。第11回手塚治虫マンガ大賞受賞作。

6巻（メディアファクトリー）カバー 2004年
©山岸涼子

大和和紀



はいからさんが通る

花村紅緒(べにお)はお転婆で男勝りな女学生。親が決めた許婚・伊集院忍少尉に反発しながらも次第に惹かれていく紅緒だったが……。大正という激動の時代を舞台に、恋にも仕事にも全力で立ち向かい、逞しく生きる主人公を描いた波瀾万丈なラブコメディ。大和作品に通底する自立した女性像とユーモアのバランスが絶妙な名作。

『週刊少女フレンド』(講談社) 1976年10月20日号(20号)

©大和和紀／講談社



ヨコハマ物語

親を亡くし、11歳で横浜の貿易商・叶屋(かのうや)に引き取られた卯野(うの)は、同じ年の令嬢・万里子(まりこ)と出会う。お転婆な万里子と素朴な卯野は身分を超えて心を通わせ、隣家の森太郎(しんたろう)とも親しくなる。やがて森太郎は医学のため海外へ渡り、万里子の家も存続の危機に直面する。明治の時代を背景に、それぞれの道を歩み始めた若者たちの恋と成長の物語。

KCフレンド2巻(講談社) カバー

©大和和紀／講談社



あさきゆめみし

平安時代に成立したとされる「いろは歌」の一節をタイトルに冠し、誰もが知る日本最古の物語文学である紫式部の『源氏物語』を漫画化。70年代に数々の恋愛ものを描いた大和が満を持して取り組んだ大人の恋物語であり、正確な時代考証による精緻な背景描写で『宇治十帖』を含め全巻を描ききった。高校などの教育現場で古典を学ぶ“参考書”としても読み継がれている。

『mimi』(講談社)1983年7月22日号(2号) 扉
©大和和紀／講談社



あさきゆめみし

『月刊mimi』(講談社) 1983年4月号 扉
©大和和紀／講談社



イシュタルの娘～小野於通伝～

時は戦国時代、人の天命が見える不思議な力をもって生まれた於通(おつう)は、和歌や書、芸術全般にたぐいまれな能力を発揮した。その感性は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と3人の天下人に認められ重用される。実在した謎多き才女、小野於通の生涯を、自らの才覚で乗り越える自立した女性の生き様としてさわやかに描いた歴史絵巻。

『BE・LOVE』(講談社)2017年5月15日号(10号)
表紙
©大和和紀／講談社

音声ガイドナビゲーター ^{ゆず かわいい} 柚香光さんに決定

『ポーの一族』『はいからさんが通る』など宝塚歌劇の舞台上で作品世界を表現してきた柚香さんが、本展をご案内します。



【プロフィール】

東京都出身。2009年、宝塚歌劇団95期生として入団し花組に配属。華やかな存在感としなやかなダンス、繊細な芝居で注目を集め、2019年に花組トップスターに就任。『はいからさんが通る』などで主演。JOSEPH、Chacott COSMETICSモデルにも起用。2024年退団後は、「マチュー・ガニオ スペシャル・ガラ」ゲスト出演、『紅鬼物語』主演、『バーン・ザ・フロア 2025』にゲスト出演。2025年末～26年『十二国記』主演、2026年5月～6月『ハムレット』に出演、同年8月に、パルコ朗読劇『ラヴ・レターズ』に出演予定。

- ◆利用料金:お一人様1台 700円(税込)
※展覧会会場入り口にて販売します。会場内でお楽しみください。
- ◆音声ガイド付き前売券 一般2,600円(税込)
※販売期間:7月28日(火)午前10時～10月27日(火)23時59分
※販売は公式オンラインチケット(イーティックス)のみ。
詳細は展覧会公式ウェブサイトをご覧ください。

ハンドタオル、コスメセット、ぬいぐるみマスコットなど 展覧会オリジナルグッズ企画進行中。



©萩尾望都/小学館 ©山岸凉子 ©大和和紀/講談社

※画像はイメージです。実際の商品と異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。
詳細は後日展覧会公式ウェブサイトにて発表いたします。

【開催概要】

展覧会名：少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸凉子×大和和紀 三人展

会期：2026年10月28日(水)～2027年2月8日(月)

休館日：毎週火曜日、11月4日(水)、年末年始(12月28日(月)～2027年1月5日(火))

※ただし、11月3日(火・祝)、12月8日(火)は開館

開館時間：10:00～18:00（毎週金・土曜日は20:00まで）※入場は閉館の30分前まで

会場：国立新美術館 企画展示室2E(〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2)

観覧料(税込)：

一般2,200(2,000)円、大学生1,000(800)円、高校生500(300)円

※()内は前売料金

※中学生以下は入場無料

※障害者手帳をご持参の方(付添の方1名を含む)は入場無料

*チケット情報は展覧会公式ウェブサイトをご確認ください。

展覧会公式ウェブサイト：<https://www.shojomanga.jp>

国立新美術館ウェブサイト：<https://www.nact.jp>

お問い合わせ：050-5541-8600(ハローダイヤル)

主催：国立新美術館

共催：毎日新聞社

特別協力：上ノ空、講談社、小学館

協力：ソニー・ミュージックエンタテインメント

【報道関係問い合わせ】

「少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸凉子×大和和紀 三人展」

広報事務局（株式会社 OHANA 内）担当／妹尾・細川・山下

〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-6 りそな九段ビル 5F

TEL : 03-6869-7881 Fax : 03-6869-7801 E-mail : shojomanga@ohanapr.co.jp